

平成17年度実施計画について

平成17年度の自然再生事業は、工事費でサンゴ群集修復事業を実施するとともに、測量試験費では、1. サンゴ群集と海域環境の関係を明らかにする、2. 漁業者・ダイビング事業者を含めた地域住民の意識向上を図る、3. 自然再生協議会のスムーズな立ち上げ及び運営を主な目的に次のような調査を実施する。

I サンゴ群集修復事業

1. サンゴ群集修復事業

幼生の加入が乏しいためサンゴ群集の回復が進まないと考えられ海域を中心に、サンゴの一斉産卵を利用し、着床具に着生させたサンゴを用いた移植によりサンゴ礁の修復を実施。

2. サンゴ群集修復事業の施工管理

順応的管理を行うため、サンゴ群集修復事業実施の際の指導・管理と、移植後のモニタリングを技術開発者の協力を得て行う。

II 調査

1. 重要海域のサンゴ群集詳細調査

平成16年度に設定した重要海域においてサンゴ群集と生息環境を詳細に調査する。

2. サンゴ群集修復実証試験

現在盛んに研究が進められているサンゴ群集修復技術について、新たな手法の検討、実証試験等を実施し、より適切な手法の検討を行う。また、修復事業に用いる着床具をミドリイシ類の産卵期に海底に固定させる。

3. サンゴ群集変動調査

水質や赤土等の堆積物によるサンゴに生じる影響の評価、サンゴ群集の変遷の予測を行うためには、加入量、死亡量、各個体の成長速度を捉える必要があり、被度変化だけでなく個体群としての変化を把握する必要がある。このため、石西礁湖内のサンゴ群集について定着板による幼生定着量、稚サンゴ加入量、群落構造などを調べるとともに、季節毎に写真を記録し死亡率や生長量を把握し、SPSS や水温などの環境条件と解析する。

4. オニヒトデ発生状況調査

石西礁湖の急増しているオニヒトデの動向を把握するため、春先にモニタリングを実施するとともに、急増地域において捕獲によって個体群組成や駆除効率を明らかにする。

5. 漁業者及びダイビング事業者に関する社会科学調査

石西礁湖自然再生事業を効果的かつ円滑に進めるため、関連するステークホルダーの調査等を実施し、自然再生協議会へ有効なインプットをおこなう。

資源管理に関する資料収集、漁業者及びダイビング事業者に対するグループヒアリングを行うなど、総合的な社会科学的調査をおこなう。

6. 地域住民に関する社会科学調査

地域の主体的参加による自然再生を実現するため、住民意識のアンケート調査を実施するとともに地域住民を対象にワークショップを開催する。また、行政機関やその他の団体等にヒアリングを行い、自然再生協議会のスムーズな立ち上げと、効果的な運営を実現する。

7. GIS入力及び解析

1～6の結果についてGISに入力するとともに、保全候補海域の選定等の解析を行う。

8. 普及啓発計画策定調査

国際サンゴ礁研究・研究モニタリングセンターの隣接地に地域の市民や学童、さらに観光客が八重山のサンゴ礁生態系を楽しみながら学ぶことの出来る、サンゴ礁に関する総合学習施設を整備することとし、そこで展示解説するプログラムの検討を行う。併せて、総合学習の時間に活用できる「ティーチャーズガイド」の第2弾を作成する共に指導者研修を実施する。

9. 自然再生協議会事務局補佐、支援委員会運営

昨年度立ち上げ予定の自然再生協議会の事務局を補佐すると共に、現在の検討委員に引き続き参画して頂く支援委員会を運営する。

10. その他

ホームページ管理、必要物品の購入に充てる。